

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

公開実用平成 4-32993

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-32993

⑮ Int. Cl.:

B 65 D 85/57

識別記号

H

庁内整理番号

8921-3E

⑬ 公開 平成4年(1992)3月17日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭ 考案の名称 記録担体収納容器

⑯ 実 願 平2-73655

⑰ 出 願 平2(1990)7月11日

⑱ 考 案 者 三 廻 部 健 三 神奈川県平塚市真土2480番地 三菱樹脂株式会社平塚工場
内

⑲ 出 願 人 三菱樹脂株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目5番2号

⑳ 代 理 人 弁理士 近藤 久美

明 細 書

1 考案の名称

記録担体収納容器

2 実用新案登録請求の範囲

薄板状の容器本体の底面に立壁を形成して記録担体とほぼ同じ大きさの収納部を形成するとともに、該容器本体の一側部に蓋体を回動自在に軸支してなる記録担体収納容器において、上記立壁に記録担体の上面に係止する係止突起を形成したことを特徴とする記録担体収納容器。

3 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、カード、ディスク等の薄板状記録担体を保管、運搬、展示する収納容器に関する。

(従来技術およびその課題)

従来、カード、ディスク等の薄板状記録担体を保管、運搬、展示する収納容器としては、第6図に斜視図で示すように、薄板状の容器本体1の底面に立壁2を形成して記録担体3とほぼ同じ大きさの収納部4を形成するとともに、該容器本体1

の側部に蓋体 5 を回動自在に軸支してなる記録担体収納容器が知られているが、この場合、収納部 4 内に記録担体 3 を収納するには、第 7 図に収納した状態を断面図で示すように、別途準備したクッション材 6 を記録担体 3 上に載置し、蓋体 5 内側に挿入した説明書 7 でクッション材 6 を介して記録担体 3 を押えることにより、保管や運搬中に記録担体 3 ががたつくのを防止していた。

しかしながら、この場合別途クッション材 6 を準備しなければならない、またクッション材 6 を記録担体 3 上に載置するのに手間を要していた。

(課題を解決するための手段)

本考案は、上記従来の点に鑑みなされたものであって、薄板状の容器本体の底面に立壁を形成して記録担体とほぼ同じ大きさの収納部を形成するとともに、該容器本体の側部に蓋体を回動自在に軸支してなる記録担体収納容器において、上記立壁に記録担体の上面に係止する係止突起を形成することにより、収納した記録担体のがたつくを防止したものである。

(実施例)

以下本考案を図面を参照して説明する。

第 1 図は、本考案の記録担体収納容器の一実施例を示す斜視図、第 2 図は記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第 3 図は本考案の別の実施例において記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第 4 ～ 5 図は本考案の更に別の実施例を示す斜視図である。

本考案の記録担体収納容器は、第 1 図に斜視図で示すように、薄板状の容器本体 1 の底面に立壁 2 を形成して記録担体 3 とほぼ同じ大きさの収納部 4 を形成してあり、該容器本体 1 の一側部に蓋体 5 を回動自在に軸支して、記録担体 3 を収納部 4 に収納する点は従来と同じであるが、本考案においては、立壁 2 に記録担体 3 の上面に係止する係止突起 8 を形成したことに特徴がある。該係止突起 8 を形成することにより、第 2 図に拡大断面図で示すように、記録担体 3 の上面が係止突起 8 により係止されて、記録担体 3 の保管あるいは輸送中に記録担体 3 ががたつくのを防止することが

できるのである。係止突起 8 の形成箇所は 4 箇所程度とすれば良い。

図示したように、立壁 2 の下部に受片 9 を形成しておく、記録担体 3 の下面が容器本体 1 の底面から浮き上がった状態となるので、記録担体 3 を取出すとき、取出し容易となるので好適である。

係止突起 8 は第 1 ～ 2 図に示したものに限定されず、第 3 図に拡大断面図で示すように、立壁 2 に形成する係止突起 8 を鉤形としても良い。

また、第 4 図に斜視図で示すように、容器本体 1 の底面に切欠き 10 を形成すると、記録担体 3 を指でつまんで取出す際、記録担体 3 の取出しが容易となるので好適である。さらに、第 5 図に斜視図で示すように、容器本体 1 の底面に弾性片 11 を形成すると記録担体 3 のがたつきを確実に防止することができるので、一層好適である。

(考案の効果)

以上の通り、本考案によれば、薄板状の容器本体の底面に立壁を形成して記録担体とほぼ同じ大きさの収納部を形成してなる記録担体収納容器に

において、上記立壁に記録担体の上面に係止する係止突起を形成したから、記録担体の保管または輸送中に記録担体がつくことを防止することができるなどの利点がある。

4 図面の簡単な説明

第1図は、本考案の記録担体収納容器の一実施例を示す斜視図、第2図は記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第3図は本考案の別の実施例において記録担体を収納した状態の要部を示す拡大断面図、第4～5図は本考案の更に別の実施例を示す斜視図、第6～7図はそれぞれ従来の記録担体収納容器を示し、第6図は斜視図、第7図は記録担体を収納した状態を示す断面図である。

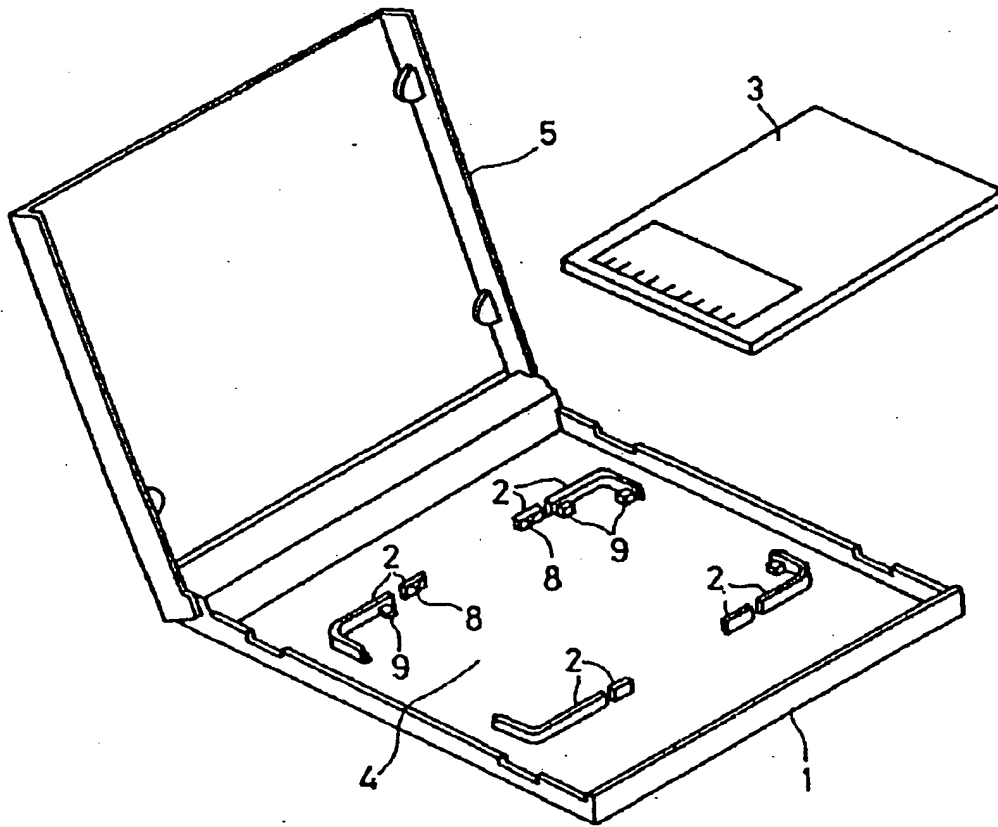
図中、1は容器本体、2は立壁、3は記録担体、4は収納部、5は蓋体、8は係止突起、9は受片、10は切欠き、11は弾性片である。

実用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社

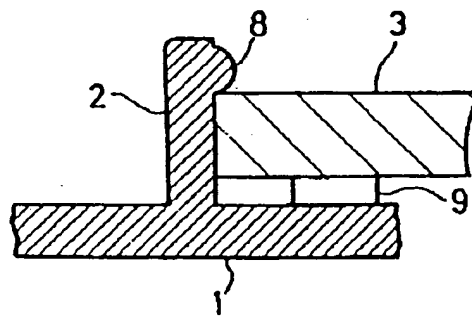
代理人 弁理士 近 藤 久 美



第 1 図

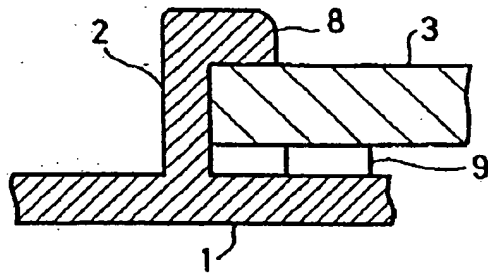


第 2 図

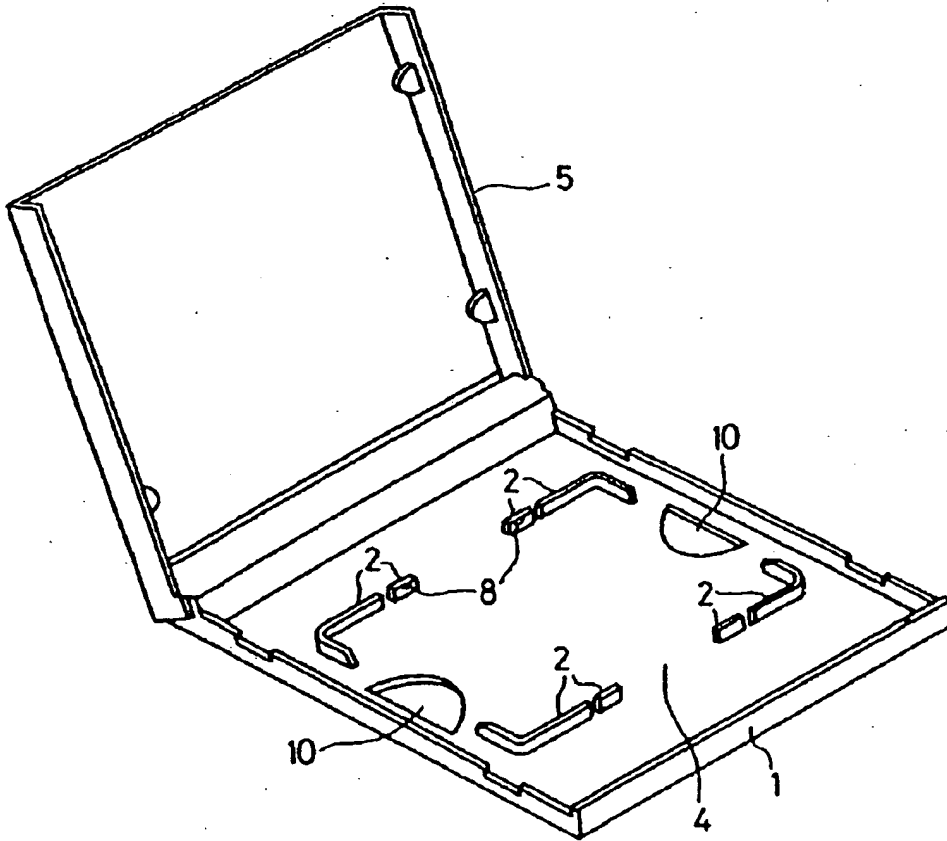


実用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社
代理人 弁理士 近藤久美

第 3 図



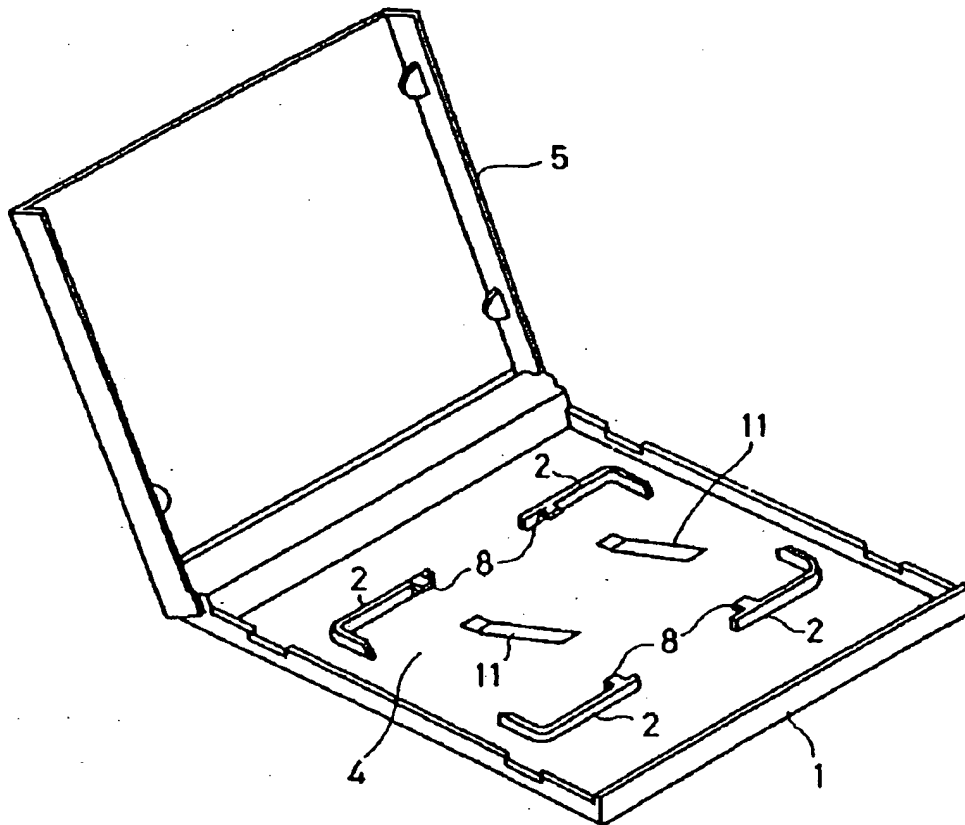
第 4 図



實用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社
代理人 弁理士 近藤久美

1162
実開4-32993

第 5 図



1163

実用新案登録出願人

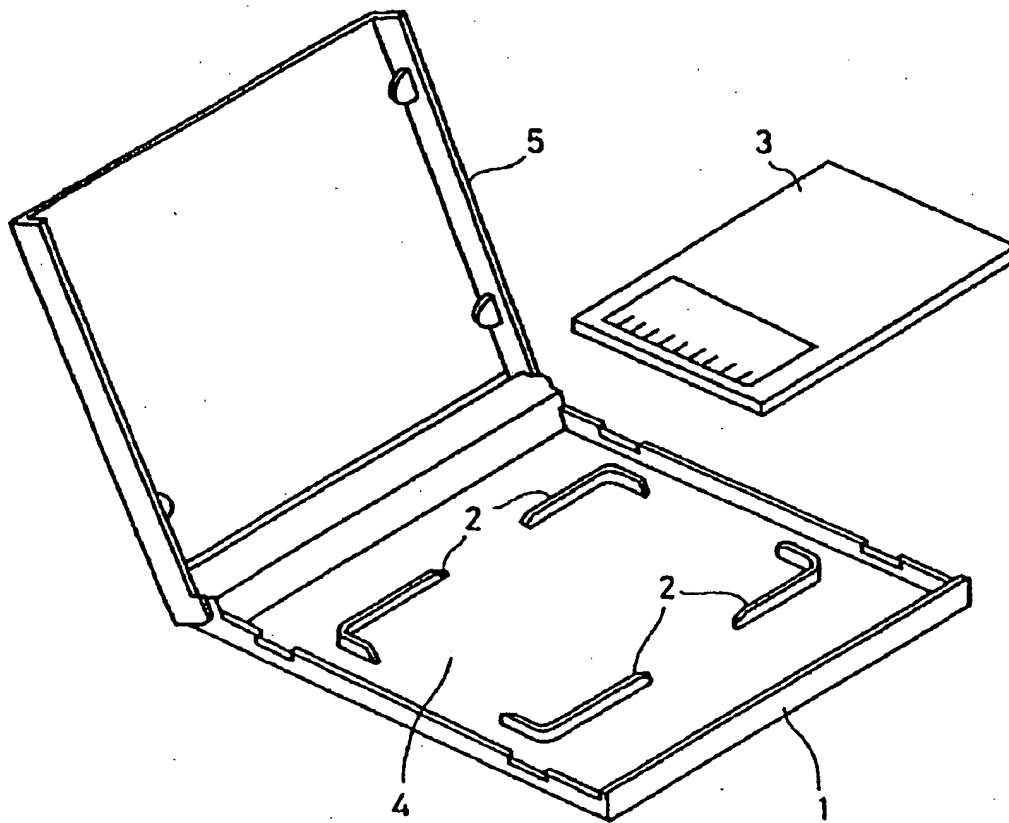
三菱樹脂株式会社

代理人 弁理士

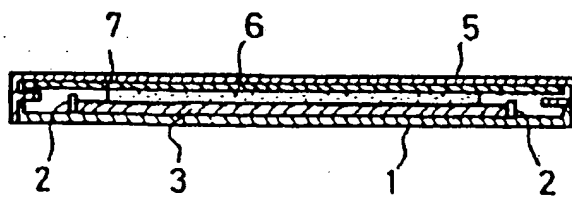
近藤久美

実開4- 32993

第 6 図



第 7 図



實用新案登録出願人 三菱樹脂株式会社
代理人 弁理士 近藤久美

1164

実開4- 32993